

Create!Form アップデートマニュアル

[V10 → V11]

- ・ Cast
- ・ Collect
- ・ Print
- ・ PrintStage
- ・ PrintStageWeb / PrintStageWeb Client

2018年8月
インフォテック株式会社

目次

1. はじめに.....	3
2. Create!Form 導入環境.....	4
① Windows 製品のフォルダ構成.....	4
② Linux/UNIX 製品のディレクトリ構成.....	4
3. 互換性に関わる項目.....	5
① 互換性に関わる項目一覧.....	5
② 互換性に関わる項目の詳細.....	5
A. 暗号化モジュールの変更.....	5
B. 帳票資源ファイル転送ツール「Create!Form FTU」の廃止.....	5
C. グラフ変数の縦書きフォントの扱い.....	6
D. 文字間隔設定が設定された縦書きフォント「中央揃え」「下揃え」の扱い.....	6
③ FormCollect 移行について.....	7
E. 対応フォントの限定.....	7
F. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異.....	8
4. アップデート手順.....	10
① V11 製品のインストール.....	10
② ユーザー設定ファイルの移行.....	10
③ 互換性に関わる項目の確認.....	15
④ 帳票資源ファイルの変換.....	16
※重要.....	17
5. 元号対応.....	18
6. おわりに.....	19

1. はじめに

Create!Form は、帳票および定型ドキュメントの出力を担うソフトウェアパッケージ製品として開発され、多様な業務システムに組み込み利用されています。一度システムに組み込まれ業務運用を始めれば何年も稼動しますが、経年の途中でソフトウェア環境を新しいものに入替える事態も発生します。こういった場合、出来るだけ同じ仕様の製品が提供されていることが望まれます。これが製品における互換性の課題となります。

Create!Form は従来のもとの互換性のある最新の製品をご提供できるように製品開発に取り組んでいます。ハードウェアと OS 環境の変化に合わせていく事、または技術の変化や市場のニーズに追従する事などを目的として改良を行います。改良を行う時には従来の仕様の上に互換性を保って改良を行うことを基準にしています。

しかしながら、将来的に変更を行うことが望ましい場合、従来の仕様を変更する場合があります。こういった場合でも、可能な限り従来の機能を利用できる手法をご提供するよう努力しています。このような事情について、ご理解をいただけるようお願い申し上げます。

本説明書では、Create!Form 製品の以下のバージョンのアップデートについて、詳細に記述しています。

現システムの製品バージョン : Version 10 (以下 V10 と記述)

アップデートバージョン : Version 11 (以下 V11 と記述)

※本マニュアルで、「開発環境」については Create!Form Design、「運用環境」については Create!Form ランタイム製品が導入された環境を示します。

2. Create!Form 導入環境

本章では、Create!Form V11 製品の導入ディレクトリ構成について説明します。

① Windows 製品のフォルダ構成

Create!Form V11 の Windows 製品では、フォルダ構成を旧バージョンより変更しております。旧バージョンでは1つのフォルダで製品プログラムや設定ファイルを管理しておりましたが、V11 では複数のフォルダで管理します。

本書で示すフォルダ名は表 1 に示すフォルダパスに対応しており、旧バージョンで使用していたデータ編集や外字ファイルなどの「ユーザー設定ファイル」は V11 の各 Create!Form のフォルダに移行が必要です。移行先の詳細は「4.アップデート手順」にて説明します。

表 1：フォルダ名

フォルダ名	製品導入時のフォルダパス初期値
プログラム	※下記のいずれか。 C:\Program Files\Infotec\CreateForm\11 C:\Program Files(x86)\Infotec\CreateForm\11
ユーザー設定(共通)	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\conf\private
ユーザー設定(ユーザー)	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\conf\system
ユーザーデータ	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\var
帳票資源	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\work
テンポラリ	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\temp

なお、導入環境の各フォルダパスについては Create!Form V11 マネージャにて下記操作により確認してください。

- ① Create!Form マネージャ画面のメニュー「ヘルプ」-「バージョン情報」をクリックします。
- ② 表示される「Create!Form V11 バージョン情報」ダイアログの「バージョン情報詳細」ボタンをクリックします。
- ③ 項目「Create!Form 情報」に表示されている各フォルダパスを確認します。

② Linux/UNIX 製品のディレクトリ構成

Create!Form V11 の Linux/UNIX 製品では、旧バージョンと同じディレクトリ構成となり、製品を展開したディレクトリが Create!Form 導入ディレクトリとなります。

旧バージョンで使用していたデータ編集や外字ファイルなどの「ユーザー設定ファイル」は指定のディレクトリへコピーします。コピー先の詳細は「4.アップデート手順」にて説明します。

3. 互換性に関わる項目

V11 から一部仕様が変更されたため、出力結果やランタイムの動作において旧バージョンと差異が生じる場合があります。ここでは、どのような差異があるか互換性に関わる項目について説明します。

① 互換性に関わる項目一覧

[製品プログラム]

- A. 暗号化モジュールの変更
- B. 帳票資源ファイル転送ツール「Create!Form FTU」の廃止
- C. グラフ変数の縦書きフォントの扱い

[PrintStage ランタイム対象]

- D. 文字間隔設定が設定された縦書きフォント「中央揃え」「下揃え」の扱い

② 互換性に関わる項目の詳細

A. 暗号化モジュールの変更

[対象]

- ・ Design、Cast、PrintStageWeb、PrintStageWeb Client

[内容]

V11 では PDF セキュリティ機能や Web クライアントセキュリティ印刷機能で使用するライブラリを「OpenSSL」に変更しました。この変更に伴い、PDF セキュリティ機能や Web クライアントセキュリティ印刷機能を使用するときは、別途「暗号化モジュール」を導入する必要があります。

[対処]

Create!Form ユーザーサポートサイト (<https://support.createform.jp/>) にて公開している「暗号化モジュール」をダウンロードして導入してください。
導入方法はモジュールを公開している Web サイトをご確認ください。

B. 帳票資源ファイル転送ツール「Create!Form FTU」の廃止

[対象]

- ・ 全 Windows 版製品

[内容]

V10 では Linux/UNIX 環境へ帳票資源ファイルを転送するためのツール「Create!Form FTU」を Windows 版製品に付属していましたが、V11 では転送モードを意識することなく運用環境へ配置することが可能となったため、「Create!Form FTU」を廃止しました。

[対処]

FTP 転送ツールや Windows のファイルコピー機能を使用して運用環境へ帳票資源ファイルを配置してください。

C. グラフ変数の縦書きフォントの扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

V10 では、グラフ変数の「ラベル」「凡例」「目盛」「実値」の各テキストに縦書きフォントの設定がありましたが、V11 では縦書きフォントの使用が不可になりました。

[対処]

V10 でグラフ変数の各テキストに縦書きフォントを設定していた場合、以下の互換設定で、V11 で V10 と同じ出力結果を得ることができます。

1. V11 の[ユーザ設定(ユーザ)]フォルダ直下の”CreateV11.ini”の[Form]セクションに”GraphFontV=1”と入力します。
2. フォームエディタにてグラフ変数のフォントを縦書きフォントに設定します。

※なお、上記設定はグラフ変数のフォントを横書きフォントに変更して保存を行った場合かつ元の縦書きフォントに戻す場合にのみ必要な設定となります。アップデートを行った時点では縦書きフォントが横書きフォントに変更されることはありません。

D. 文字間隔設定が設定された縦書きフォント「中央揃え」「下揃え」の扱い

[対象]

- ・PrintStage ランタイム製品

[内容]

V10 では、縦書きフォントが設定された固定テキストの文字間隔を設定し、「真中揃え」または「下揃え」を設定すると出力結果が以下のように異なります。

V10 の場合 . . . 最終行が上にずれて描画されます。

V11 の場合 . . . 正しい位置に描画されます。

[対処]

以下の互換設定で、V11 で V10 と同じ出力結果を得ることができます。

1. V11 の[ユーザ設定(ユーザ)]フォルダ直下の”CreateV11.ini”の[Form]セクションに”FTextKerningV=1”と入力します。
2. フォームエディタにてファイルを再度保存します。

③ FormCollect 移行について

V11 では、旧バージョンの FormCollect ランタイムにてフィールドオブジェクトとして出力していたオブジェクトを Screen ランタイムで入力フォームオブジェクトとして出力することが可能となります。

旧バージョンでのフィールドオブジェクトの各名称は以下の入力フォームオブジェクトの各名称に変更となります。

旧バージョンでの名称	V11 での名称
・テキストフィールド	・テキストボックス
・コンボボックスフィールド	・コンボボックス
・リストボックスフィールド	・リストボックス
・チェックボックスフィールド	・チェックボックス
・ラジオボタンフィールド	・ラジオボタン
・サブミットボタンフィールド	・サブミットボタン
・リセットボタンフィールド	・リセットボタン
・ボタンフィールド	・ボタン

また、FormCollect ランタイムから Screen ランタイムのオブジェクトへ変換される際に、以下の仕様に変更となります。

E. 対応フォントの限定

F. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異

E. 対応フォントの限定

[内容]

Form エディタ上でフィールドオブジェクトに設定できるフォント種別が変更されました。V11 の場合、以下のフォントのみ選択可能です。

- TrueType フォント
- Web フォント
- font-family 名指定フォント

F. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異

[内容]

Collect ランタイムから Screen ランタイムへの移行により、以下の内容についての仕様変更となりました。

- [ページのアクション]、[JavaScript 関数登録]は削除されます。

→ファイルメニュー[オプション]-[アクション]の以下のメニューが削除されます。

- ページのアクション
- JavaScript 関数登録
- すべての JavaScript の編集

- [署名フィールド]オブジェクトは削除されます。

- [アクション]、[カスタム JavaScript]は削除されます。

→サブミットボタンフィールド、リセットボタンフィールド以外の[アクションタブ]の以下の設定が削除されます。

- フォームデータの送信
- フォームデータのリセット
- フィールドの表示/非表示
- WWW リンクを開く
- ビューアメニューの実行

→テキストフィールド[検証]タブの以下の設定が削除されます。

- カスタム JavaScript を実行する

→テキストフィールド[計算]タブの以下の設定が削除されます。

- カスタム JavaScript

※コンボボックスフィールド[フォーマット]、[検証]、[計算]タブ、リストボックスフィールド[選択の変更]タブの設定は削除されます。

- [欧文フォント]は[MS 明朝]に変更されます。

- [スペルチェック]設定は削除されます。

→テキストフィールド、コンボボックスフィールド、リストボックスフィールド[オプション]タブ

- [編集可能]設定は削除されます。

→コンボボックスフィールド、リストボックスフィールド[オプション]タブ

- [送信データ形式]設定は[HTML]に変更されます。

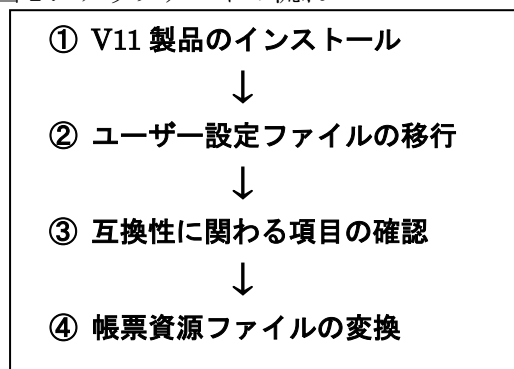
→サブミットボタンフィールド[オプション]タブ

- ・[対象フィールド]設定は[すべてのフィールド]に変更されます。
→サブミットボタンフィールド、リセットボタンフィールド[オプション]タブ
- ・[反転]設定は[なし]設定に変更されます。
→ボタンフィールド[オプション]タブ
- ・[アウトライン]設定は[なし]に変更されます。
→ボタンフィールド[オプション]タブ
- ・[プッシュ]設定時の[押下]、[ロールオーバー]のラベル設定は削除されます。
→ボタンフィールド[オプション]タブ
- ・[複数行を許可する]設定が無効の場合は「スクロールを許可する」設定は削除されます。
→テキストフィールド[オプション]タブ
- ・[表示/印刷しない]設定は[表示]設定に変更されます。
→すべてのフィールドオブジェクト[表示]タブ
- ・[非表示/印刷する]設定は[非表示]設定に変更されます。
→すべてのフィールドオブジェクト[表示]タブ

4. アップデート手順

本章では、開発環境へ Create!Form V11 をインストールし、アップデートする手順を示します。

図1. アップデートの流れ



帳票資源ファイルとは、フォームファイル、データマップファイル、ジョブ（スタイル）ファイルを指します。ユーザー設定ファイルとは、Design 製品を導入する開発環境、帳票出力ランタイム製品を導入する運用環境で使用する設定ファイルです。

① V11 製品のインストール

まず最初に V11 製品をインストールします。V11 製品のインストールは、V11 製品の「インストール」マニュアルに沿って行ってください。なお、V10 製品がインストールされた環境と同じ環境へ V11 製品をインストールする場合、V10 製品とは異なるディレクトリへ V11 製品をインストールしてください。

② ユーザー設定ファイルの移行

V10 で使用しているユーザー設定ファイルを V11 環境へ移行します。ユーザー設定ファイルには、次のファイルがあります。なお、運用環境への移行は開発環境で帳票資源ファイルを変更後に実施してください。

- ・ QDF ファイル
- ・ 印刷詳細設定ファイル
- ・ データ編集定義ファイル
- ・ フォント情報定義ファイル
- ・ 外字ファイル
- ・ PDF セキュリティ設定ファイル
- ・ カラーパレットファイル

上記のユーザー設定ファイルに対して V10 環境にて独自の設定を追加している場合、そのファイルを V11 の環境にコピーする必要があります。移行先のフォルダは「2. Create!Form のディレクトリ構成」にて説明したフォルダ名にて説明します。

1. QDF ファイルのコピー

V10 で使用している QDF ファイルを、全て V11 の導入環境へ上書きします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンの環境で QDF エディタを使用して QDF ファイルの新規作成及び編集を行っていない場合、以下の作業を行う必要はありません。

■Windows 環境の場合

- ① V11 の [ユーザー設定 (共通)] フォルダ直下 [qdf] フォルダに配置されている” default.qdf” ファイルをリネーム (保存用) します。
- ② V10 の Create!Form 導入フォルダ直下の拡張子” .qdf” のファイル (QDF ファイル) を全て、V11 の [ユーザー設定 (共通)] フォルダ直下 [qdf] フォルダにコピーします。

■Linux/UNIX 環境の場合

- ① V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下に配置されている” default.qdf” ファイルをリネーム (保存用) します。
- ② V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の拡張子” .qdf” のファイル (QDF ファイル) を全て、V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下へコピーします。

2. 印刷詳細設定ファイルのコピー

V10 で使用している印刷詳細設定ファイル (.ppd、.spd) を、全て V11 の導入環境へ上書きします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンの環境で印刷詳細設定ファイルを使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

■Windows 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入フォルダ直下の [ppd] フォルダの拡張子” .ppd” のファイル全て、V11 の [ユーザー設定 (共通)] フォルダ直下 [ppd] フォルダへコピーします。

- ② V10 の Create!Form 導入フォルダ直下の [stypd] フォルダの拡張子” .spd” のファイルを全て、V11 の [ユーザー設定 (共通)] フォルダ直下 [stypd] フォルダにコピーします。

■Linux/UNIX 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の [ppd] ディレクトリの拡張子” .ppd” のファイルを全て、V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下 [ppd] ディレクトリへコピーします。
- ② V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の [stypd] ディレクトリの拡張子” .spd” のファイルを全て、V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下 [stypd] ディレクトリへコピーします。

3. データ編集定義ファイルのコピー

V10 のデータ編集機能においてユーザー定義編集を使用している場合は、定義データ (EFmEdit.dat、dff ファイル) のコピーが必要です。ユーザー定義編集とは、インストール時に登録されたデータ編集とは別に、新規に登録した独自のデータ編集のことを指します。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、ユーザー定義編集を追加していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

■Windows 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入フォルダ直下の” EFmEdit.dat” ファイルを V11 の [ユーザー設定 (共通)] フォルダ直下へコピーします。
- ② V10 の Create!Form 導入フォルダ直下の [dff] フォルダの拡張子” .dff” のファイルを全て V11 の [ユーザー設定 (共通)] フォルダ直下 [dff] フォルダへコピーします。

※Windows 運用環境に「EFmEdit.dat」ファイルの配置は不要です。

■Linux/UNIX 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の [dff] ディレクトリの拡張子” .dff” のファイルを全て V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下 [dff] ディレクトリへコピーします。

※Linux/UNIX 環境に” EFmEdit.dat” ファイルの配置は不要です。

4. フォント情報定義ファイルのコピー

V10 のフォントマネージャで PDF 用埋め込みフォント、もしくは PostScript フォントを登録して使用している場合、フォント情報定義ファイルを V11 環境へコピーします。この作業は開発環境 (Design) にて行います。なお、新規にフォントを登録していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

■Windows 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入フォルダ直下の” fonts.dat” ファイル、
” fontnums.dat” ファイルを V11 の[ユーザー(共通)]フォルダ直下へコピー
します。

※PostScript フォントを追加している場合、旧バージョンの開発環境の Create!Form 導入フォルダ直下[font]フォルダの” user.fnt” ファイルを V11 の開発環境・運用環境に配置する必要があります。下記のフォルダへ” user.fnt” ファイルを配置してください。

【Windows】

V11 の[ユーザー(共通)]フォルダ直下[font]フォルダへコピーします。

【Linux/UNIX】

V11 の導入ディレクトリ直下 [font]ディレクトリへコピーします。

※埋め込みフォントを使用している場合、旧バージョンの運用環境に導入したフォントファイルを V11 の開発環境・運用環境に導入する必要があります。下記のフォルダへフォントファイルを配置してください。

【Windows】

埋め込みフォントとして指定したフォントファイルを Windows の[Fonts]フォルダへ導入します。

【Linux/UNIX】

埋め込みフォントとして指定したフォントファイルを Create!Form 導入ディレクトリ直下[font]ディレクトリへ配置します。なお、環境変数「CREATE_FONT」でフォントファイルの配置ディレクトリを指定するときは、設定したディレクトリへフォントファイルを配置してください。

5. 外字ファイルのコピー

V10 で外字を使用している場合、外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を V11 環境へコピーします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、外字を使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

■Windows 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入フォルダ直下の [font] フォルダの外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を V11 の [ユーザー(共通)] フォルダ直下の [font] フォルダにコピーします。

※Windows の [Fonts] フォルダの外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を使用している場合は、V11 導入環境の Windows の [Fonts] フォルダに外字ファイルをコピーします。

■Linux/UNIX 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の [font] ディレクトリの外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下 [font] ディレクトリへコピーします。

6. PDF セキュリティ設定ファイルのコピー

V10 で PDF セキュリティ設定を SEC ファイル (.sec) に登録して使用している場合、SEC ファイルを V11 環境へコピーします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンで SEC ファイルを使用したセキュリティ設定を使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

■Windows 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入フォルダ直下の [sec] フォルダの拡張子” .sec” のファイルを全て、V11 の [ユーザー設定(共通)] フォルダ直下 [sec] フォルダにコピーします。

■Linux/UNIX 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の [sec] ディレクトリの拡張子” .sec” のファイルを全て、V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の [sec] ディレクトリにコピーします。

7. カラーパレットファイルのコピー

V10 で独自の色設定を作成して使用している場合は、カラーパレットファイルを V11 の導入フォルダに上書きします。

この作業は開発環境 (Design) にて行います。

なお、色設定を作成していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

■Windows 環境の場合

- ① V10 の Create!Form 導入フォルダ直下の拡張子 “.plt” のファイル (カラーパレットファイル) を全て、V11 の [ユーザー設定 (共通)] フォルダ直下へコピーします。

③ 互換性に関わる項目の確認

ご利用の帳票資源ファイルが「互換性に関わる項目」に該当するかどうかは、Design 製品付属の帳票資源ファイルバージョンアップツール (以後、UpToV11) で確認することができます。UpToV11 で確認できる項目は、以下の内容です。

F. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異 (p8 参照)

確認は以下の手順で行います。

1. V11 製品付属の “UpToV11” を起動します。
スタートメニューの [Design ツール]、またはマネージャのメニュー [ツール] - [UpToV11] より起動できます。
2. 「変換元ディレクトリ」に V10 の帳票資源ファイルの作業ディレクトリを選択します。
3. 「互換性チェック」の「チェック」ボタンをクリックします。
4. 互換性に関わる項目に該当する帳票資源ファイルが存在する場合は、[互換性チェック] ダイアログが表示されます。また、V11 の [ユーザーデータ] フォルダ直下 [log] フォルダにチェック結果のログファイル “UpToV11_Diff.log” が出力されます。
5. 該当する帳票資源ファイルが存在する場合、「互換性に関わる項目」に対応した [対処] を行ってください。

[互換性チェック]ダイアログの見方

- ・ファイルリスト

互換性に関わる項目に該当したファイル (fmd、dmp、sty) が表示されます。リスト内の各ファイルをクリックすると、そのファイルにおける互換性チェック項目が右側の[チェック項目リスト]に表示されます。

- ・ fmd ファイル (フォームファイル) のチェック項目

「F. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異」 に該当するかどうかを表示します。

[チェック項目リスト]での表示は、以下を参照してください。

チェック項目

[チェック項目リスト]での表示

F. その他 FormCollect から Screen への・・・「**FormCollect 関連**」
変更による仕様差異

該当する設定が存在する場合は、「オブジェクト番号 (No)」「オブジェクト名」と共に、チェック項目リストに「○」が表示されます。該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

※ 「L. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異」のチェック項目では、[ログを開く]ボタンより仕様差異の詳細を確認することができます。

④ 帳票資源ファイルの変換

帳票資源ファイルの変換作業は、互換性の問題に関わらず必ず行います。

V10 で使用していた帳票資源ファイルを変換ツール (UpToV11) を使用して V11 で使用できるように変換します。この変換作業は開発環境で行い、変換した V11 の資源ファイルを運用環境にコピーまたは転送します。

1. V10 の帳票資源ファイル一式を Design V11 をインストールしたマシンにコピーします。
2. V10 の帳票資源ファイルを、Design V11 製品付属の UpToV11 で V11 の帳票資源ファイルに変換します。

※重要

- ① Print、PrintStageにて出力先とするプリンターは、予め開発環境と運用環境にインストールが必要です。また、出力先を Create!Form のプリンターID(PRTn、 $n \geq 1$)で指定されている場合、V10 環境と V11 環境で同一のプリンターID に対して同じプリンターを登録することで出力先のプリンターID を揃えることができます。

V10 のマネージャのツールボタン「プリンタ」より起動するダイアログにて以下の内容をご確認いただき、V11 のマネージャのツールボタン「プリンタ」にて同じ内容を登録してください。

- 各プリンターID に登録されているプリンター名
- 各プリンターID を選択後にボタン「トレイ設定」より表示されるプリンターの給紙トレイと Create!Form の給紙トレイ番号

- ② V10 ご利用の際にさらに下位のバージョン (V4～V9) の互換設定を行っていた場合は、V11 においてもその互換設定が必要となります。下位バージョンの互換設定につきましては、対応するバージョンのアップデートマニュアルに記載されております。アップデートマニュアルは Create!Form ユーザーサポートサイトよりダウンロードしてご確認ください。

5. 元号対応

V10 のデータ編集設定機能を用いて和暦の「平成」より 後の元号を表示する場合、元号設定ファイル「era_jp.dat」ファイルをテキストエディタなどで作成、または修正する必要があります。

和暦設定(データ編集)が行われている資源の存在有無の確認には、以下のチェックツールをご利用下さい。

<https://support.createform.jp/download/view/533.html>

元号設定ファイルは以下の手順で作成します。

ファイル名 : era_jp.dat

era_jp.dat ファイルフォーマット : 開始日(yyyy/mm/dd),元号(漢字),元号(漢字 1 文字),元号(英大文字 1 字)

※1 行に 1 つの元号を設定することが可能です。

ex)2019 年 5 月 1 日を開始日として元号「久里」を設定する場合
2019/05/01,久里,久,C

■Windows 環境の場合

V9 の Create!Form 導入フォルダ直下に"era_jp.dat"ファイルが存在する場合、V11 の[ユーザ設定(共通)]フォルダ直下へコピーします。"era_jp.dat"ファイルが存在しない場合は新規に作成します。

■Linux/UNIX 環境の場合

V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下に"era_jp.dat"ファイルが存在する場合、V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下へコピーします。"era_jp.dat"ファイルが存在しない場合は新規に作成します。

「era_jp.dat」ファイルの詳細に関しては CreateV11 マネージャのメニュー[ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「1. インストール」・「1.6 導入環境の設定」・「1-6-9 元号対応」をご覧ください。

6. おわりに

本アップデートマニュアルは、新たに互換性に関する記載事項が発見された場合は、追加更新が行われます。最新のアップデートマニュアルは、Create!Form ユーザーサポートサイトよりダウンロードできます。また、アップデート作業に関してご質問がある場合、弊社サポート係までご連絡ください。

■ Create!Form ユーザーサポートサイト

URL : <https://support.createform.jp>

■ サポートお問い合わせ

E-Mail : support-c@iftc.co.jp

Create!Form

アップデートマニュアル[V10 → V11]

発行日 2018年8月3日 [第3版]

発行者 インフォテック株式会社